

公開文書

令和 2年 6月 24日

(臨床研究に関する公開情報)

水戸医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【研究課題名】中等から重症外傷疾患患者におけるフレイルと長期予後（自然史,QOL,社会復帰）との関連：コホート研究

【研究責任者】水戸医療センター 放射線技師 大曾根 敏彰

【研究の背景】フレイルとは、『Frailty』の日本語訳であり、高齢期に物事に対する予備能が低下することでストレスに対する弱さが亢進し、生活機能が障害され、要介護状態、死亡などのに陥りやすい状態のことです。身体の問題だけでなく、認知機能や精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題を含む概念です。フレイルは様々な悪い結果と関連していて、死亡、転倒・骨折、認知症の発症、多剤服用、入院・施設入所、ADL障害などと関係します。従って、中等から重症外傷患者においてもフレイルであるか否かにより、短期予後・長期予後が異なると考えられます。今回の研究ではフレイルの原因の1つであるサルコペニアの情報を用いてフレイルと外傷予後の関連を検討します。サルコペニアはCTの値からは推定します。超高齢社会である日本において、外傷患者さんの長期予後は大きな問題となり、これから高齢化を迎える世界の先駆であるという意味でも重要な課題です。

【研究の目的】

フレイルと中等から重症外傷患者さんの関係性を見つけることが目的です。

【研究の方法】

対象となる患者さん

- 西暦2017年11月1日から西暦2019年10月31日までに、平成29年度国立病院機構ネットワーク共同研究;H29-NHO（多施設共同研究）-01の対象となり定期的にQOLアンケートを記載された患者さん

- 利用する情報、カルテ情報、転帰、効用値(EQ-5D-5L)、生活場所、治療頻度、社会（仕事）復帰有無、再入院の有無、これらとCTで測定した腸腰筋という筋肉の面積の関係を検討します。

●情報の管理

研究のために集めた情報は、当院の研究責任者が責任をもって鍵のかかる部屋のインターネット接続可能なパソコンに保存します。漏洩することのないようセキュリティを確保します。研究終了後は5年間保存し、保存期間が終了した後に個人を識別できる情報を取り除いた上で廃棄いたします。

【個人情報取扱の取り扱い】利用する情報からは、お名前、住所など、個人を直接特定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報とは利用しません。

【問い合わせ先】

国立病院機構水戸医療センター 放射線科 大曾根 敏彰、黒澤 美穂
電話番号：029-240-7711